

第2回茅野市総合計画審議会会議結果報告書

会議の名称	第2回茅野市総合計画審議会		
開催日時	平成29年4月14日(金) 18時30分～21時00分		
開催場所	市役所8階大ホール		
公開・非公開の別	公開	・非公開	傍聴者の数 0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	○議事		
	1 開会 2 事務局自己紹介 3 協議事項 (1) 茅野市を取り巻く時代の流れとこれからのまちづくりの課題について (2) 第5次茅野市総合計画体系(案)について (3) (仮称)第5次茅野市総合計画策定全体ミーティングについて 4 その他 5 閉会		
事務局	○議事録		
	1 開会 2 事務局自己紹介 4月1日付けの人事異動で、事務局体制が変わっています。改めて事務局の自己紹介を行います。 ・市職員が一人ずつ自己紹介をした。		
事務局	3 協議事項		
	協議事項に入る前に、みなさんに2点お諮りをします。まず1点目として、この審議会について、原則公開とし、議事録は発言者の氏名を匿名として、ホームページに公開すること、2点目は、次回以降の会議において、この確認は省略し、非公開とする場合のみ委員と協議することとしてよろしいか。 異議なし。		
事務局	(1) 茅野市を取り巻く時代の流れとこれからのまちづくりの課題について ・ ・ ・ 資料1に基づき説明 ・ ・ ・		
会長	ただいま事務局から説明をいただきました。この人口減少・少子高齢化については、恐ろしい現実だと感じています。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計等をみると、これから日本はどうなってしまうのだろうと感じます。それを茅野市のベースに置き直して、これから茅野市はどのようにしていったらよいかについて、各委員からそれぞれ関係する立場		

で、感想やご意見をお願いします。

(1 人口減少・少子高齢化)

委員

茅野市の人口の状況については、日頃から注視しておりますが、去年は転入者数が転出者数を上回っており、当団体の移住促進の活動も着実に実績を上げているということから言えば、まだまだ希望が持てると感じています。医療費の伸びが気になる場所ですが、生産年齢人口の増加に寄与する移住について、今後も茅野市としてもどれだけ努力していくかが大切で、いろんな切り口で茅野市を宣伝していくなど、引き続き力を入れて取り組む必要があると思います。

一つ移住対策として懸念材料があります。移住先として茅野市を選択する要因として、自然が豊かで人間らしい暮らしができるということが挙げられます。その一方で、茅野市は条例等の制約がないため、太陽光発電がいっぱいできており、茅野市はどこでもソーラーができてしまうということで移住先の候補から外されることもあります。

自然エネルギーを推進するのか、自然環境を守っていくのか、今後茅野市が何を売りにしていくのかをきちんと整理し、それに向けた条例等の整備も行っていく必要があると思います。

委員

他の市町村では、行政と PTA が連携して事業を行うことがあり、うらやましいと感じています。今後の計画においては、高校生等の他地区への流出対応等も含めて、地域の子供たちをきちんと見守り大事に育てていく政策が重要です。

委員

独居高齢者等への対応としての仕組みづくりのためには、地域住民の関わり方が非常に重要となり、特に福祉 21 ビーナプランでどのような方向を出していくかがポイントになります。

また、今回の総合計画の策定においては、茅野市の今ある活動や今ある良さをどう活かすか、どう伸ばすかといった視点も大切だと考えます。

委員

市の財政の基盤ともなる産業面では、企業経営者の高齢化が全国的な課題です。長野県内でも 60 歳以上の経営者が 3~4 割程度であり、今ある企業を減らさない、働く場所を地域にどれだけ残していけるかなども含めた後継者不足への対応が不可欠です。働く場所を確保することによって、財政基盤を強化するような政策が必要です。

また、未収納税者がいないような取組を行っていく必要があります。

委員

人口減少が非常に大きな課題であり、移住を促進する意味でも、その対応のための働く場所の確保として、企業誘致を積極的に行う必要があります。

委員

諏訪東京理科大学の公立化によって、生徒数が増えるので、その生徒たちが茅野市へ残ってもらうための産業の受け皿の充実が必要です。

公共施設については、利用需要と現状の施設とのミスマッチが非常に大きな課題であり、今後老朽化に伴う維持管理費等の増大が見込まれるため、総量を減らすことも視野に入れ、選択をしていく必要があります。

	<p>コンパクトシティや土地の利用計画について、コミュニティの強化という観点から学校周辺の土地を有効活用できるような、現実に即した方策が必要です。</p>
<p>委員</p>	<p>身の回りを見ると多子化が進んでいるような感覚ですが、合計特殊出生率の推移をみると、あまり改善していないので、感覚と数値とのズレを感じます。統計の取り方も全体の平均だけではなく、課題を特定できるような方法で行う必要があります。</p> <p>また、対応の方向の表現が総花的でわかりづらく、もう少し具体的な内容を含めて戦略的な表現が必要です。</p>
<p>会長</p>	<p>委員さんからのご意見にもあったとおり、「対応の方向」の内容が総花的で切り込んでいない印象ですので、これから各委員の意見も踏まえながら、内容を詰めていきます。</p> <p>また、茅野市のこれからの方向性として、都市間競争で人口を取り合うという発想なのか、今ある自然の流れの中でよりよい地域づくりを進めていくのかという選択が、施策の中で重要なポイントです。他の切り口、方向性の検討の中でも意見をお願いします。</p> <p>(2 変化する社会・経済への対応)</p>
<p>委員</p>	<p>市の財政で歳入を増やすためには、産業の基幹となるものづくりの会社が元気であることが大切です。自然環境の保全ともものづくりが一体となって推進されていくような政策が望ましいです。市内には下請け的な企業が多いので、企業を誘致するための土地等の基盤整備や積極的な PR により企業誘致ができれば、市内の産業に幅広く好影響を与えたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>農業従事者の高齢化が課題となっています。農業者の所得拡大、新規就農者の確保に向けての取組が必要です。</p>
<p>委員</p>	<p>観光産業において、八ヶ岳山麓のすばらしい景観や自然の湖などありのままの自然環境における誘客力は非常に大きいです。このような場所をきちんと整備し、守っていくことが、流入人口や交流人口の増加につながります。</p> <p>近年、蓼科中央高原に住む子どもの数が増えており、その要因は、八ヶ岳山麓や農村のすばらしい景観のもと、子育てをしながら住みたいといった理由での移住です。先ほど太陽光発電の問題の話がありましたが、観光もそこに住みたい、訪れたいというのが観光の原点であり、目先や小手先の観光誘致戦略を取るよりも、根本的な環境整備や景観整備をしていくことが大切です。また、工場誘致にあたっては、きちんとゾーニングをすることによって、景観との両立は可能です。</p>
<p>委員</p>	<p>全体的な経済状況ですが、茅野市の産業構造はありとあらゆる業種が揃っていることが特色です。</p> <p>工業は、大きな会社から中小企業までピラミッド型になっており、下請けも含めて連携されています。工場誘致について、今までの実績としては</p>

	<p>県内他地区と比べても多い状況ですが、空いている土地や使われていない工場の活用も含めて、さらなる工場誘致は可能です。プリント基板などの半導体の企業数も多く、労働者の受け皿となっており、まだまだ雇用における潜在力もあります。</p> <p>観光は、インバウンドも増えてきており、比較的年齢の高い方が自然を求めてのリピート率が高まっています。</p> <p>商業は、インターネットの普及により、ネット販売のウェイトが高くなってきており、お店での売買は減っていく傾向にあります。</p> <p>工業や観光は、創意工夫や行政の施策によって、まだまだ成長する素地があります。</p>
委員	<p>人口減少やまちづくりにおける今後のキーワードは「安心」だと思います。たとえば、子育てなど先の見えないものに不安を感じると思います。茅野市では子育ての支援が充実していると思いますが、若い人のライフスタイルの中に様々な支援が安心感として広がっていかないことが課題です。これからの茅野市としては、施策の積極的なPRを行い、行政と市民が情報を共有する中で、文化面でも産業面でも「安心」と感じられるような施策を展開してほしいです。</p>
委員	<p>2025年問題、2030年問題といわれていますが、今後高齢者数や死亡者数が増加していきます。特に75歳以上の割合が増加していくことにより、高齢になればなるほど、1年を通じて入院する日数が長くなり、医療費が増えていきます。</p> <p>人生の最後をどのように迎えるかを含め、どのような地域を目指すのかについて、議論が必要です。その動向によって医療費も変わってきます。</p> <p>また、医療、介護の人材不足は現場でも実感しており、大きな課題となっています。</p>
委員	<p>未就学児・小学生スポーツ教室に携わって感じることは、体力や持久力の低下です。人口減少や少子高齢化などの社会課題への対応手段の一つとして、健康やスポーツの役割は非常に重要です。</p> <p>健康寿命を延ばすことは、大人になってからでは遅く、幼少期からの運動の習慣化が重要です。そのためには、スポーツを幼少期からあたりまえのように親しんで楽しんで取り組む環境が大切となります。ハード的な施設整備は税収等の問題で難しくなる面がありますが、いつでも気軽に当たり前のように運動やスポーツを行えるためのソフト面での整備が大切です。</p>
委員	<p>人口減少・少子高齢化は全国的に非常に大きな問題です。人口減少下で経済成長した国はありません。今後の10年間は、20年後、30年後を見通したときに非常に重要な期間となります。そのような中で産業面はもっと危機感をもって考えるべきであり、課題や対応の方向についても、深刻な状況を反映したまとめ方をすべきです。人口が減って経済成長がどんどん鈍化をしていくと、企業は海外へ出ていき、国内の企業は減っていき、それが地方にも波及していき、企業誘致にしても地域間の取り合いになるでしょう。いずれにしても、産業がどんどん低下をしていくといった</p>

課題に向けて、例えばこの地域の特性を活かした新しい産業をどのように育てていくかを考え、計画としてまとめていくべきです。

(3 技術革新)

委員

技術革新の分野は、社会構造の大きな変革につながるので、これからの社会の仕組みとともに国の方向性をうまく捉えながら、補助金等の財源を活用していくべきだと思います。

この地域に住む人たちの仕事や生活をどのように成り立たせるかを踏まえた上で、技術革新の分野がどのように役に立つかを考えるべきです。

委員

ロボット産業等の技術革新は脅威ととらえるべきではなく、様々な分野で課題となっている人手不足への対策や社会の利便性の向上に有効です。しかし、現状では、省力化や生産性の向上につなげられる人材や教育が不足しています。IT化等はそれ自体が目的ではなく、省力化、生産性向上、コストダウンにより社会が良くなるために活用し、そのための人材を育成していくことが必要です。

(4 ネットワークの広がり)

委員

姉妹都市であるロングモント市は、20年前は茅野市とほぼ同じ5万人の人口でしたが、今は9万7千人近くまで人口は伸びています。茅野市では、外国人労働者は減っていますが、今後単なる労働者ではなく、イノベーターや知的労働者を増やす方向で産業を伸ばしていくことが必要です。

ロングモント市は、ネットワークが非常に強く（インターネットが非常に速い）、オフィスビルの整備によりオフィスワークを増やす政策を推進しています。茅野市でも、企業誘致やオフィスビルの解放等により、単に日本の中で選ばれるというだけではなく、海外からも外資系産業や知的労働者などが好んでこの地域に来ることの誘発により、地域の活性化に直接つながれます。グローバル化というよりも、茅野の強みを世界に売り込んでいくことが大切です。

委員

広域連携は必然の流れであり、これから先はあらゆる面で、各自治体でやるべきことと連携して取り組むべきことを振り分けていく必要があります。特に産業面では、広域的な連携事業をどんどん増やしていくことをより踏み込んで行うべきであり、課題や対応の方向にその内容をまとめていく必要があります。

委員

コミュニティ衰退は地域の衰退となるため、居心地のいいコミュニティをいかにつくるか、それが人口流出への対応の最後の砦になると思っています。

現在の取組としては、できるだけ大勢の人に出番があったり、得意なことを活かせるような人材マップの作成や、コミュニケーションのための飲み会などの場づくりを行っています。

また、そうしたコミュニケーションから生まれる新たな事業に、その分野に得意な人を中心にもらい、運営協議会といった組織の中の専

委員	<p>門委員会に位置付けて事業を行っていくことも考えています。</p> <p>なお、これまで出ている意見をお聞きする中で感じることは、過去の総合計画の反省や良かった点を踏まえてどうするかを議論する場も必要だと思います。</p> <p>現在の市民活動センターゆいわーくの取組としては、その役割である市民活動の更なる展開を図っています。地域や市民のニーズと、自分たちはこんなことができますといった需要と供給をつないでいきたいです。ボランティアの高齢化や、若い人たちにいかにボランティアに参加してもらうかが課題です。</p> <p>(6 防災意識の高まり)</p>
委員	<p>現在各自主防災組織において、家に自転車があるか車いすがあるか、企業でいえば2t車や4t車、バックフォアがあるかといったことのマッピングを行い、地域資源等の把握や情報の整理に取り組んでいます。</p> <p>防災対策においては、家族等の会議が重要です。あらゆる時間帯における被災を想定し、連絡方法や対処方法等について、家族や職場での話し合いを重ねることが大切です。さらに日頃から避難物品等の貯蓄物等の備えも必要です。</p>
会長	<p>以上で、茅野市における現状分析や課題について、協議をいただきました。今後も検討を進めていく中で、新たなご意見をいただければと思います。</p>
事務局	<p>(2) 第5次茅野市総合計画体系(案)について</p> <p>・・・資料2に基づき説明・・・</p>
委員	<p>グローバル化は何を目指してどんなゴールとするのか、グローバル化＝英語教育がどんなねらいなのかを明確にすべきです。グローバル化とはグローバルに語り合える価値を持つことだと思いますので、教育の面で、茅野市やその固有の文化を語れるような教養の高さが重要ですが、そこが抜けていて、多文化共生のためには英語が必要だとするのは狙いが弱いと思います。</p> <p>また、ICTについても、それを活用して何を達成するかを明確にする必要があります。ツールとして使うのが技術であり、ゴールを設定した上でツールとして使うべきですので、どういう状態を目指すのかを書くべきです。</p>
委員	<p>まちづくりの基本指針①にある「地域や家族で支え合う仕組みづくり」の中の「家族」という言葉に違和感があります。地域で支え、世代を超えて支え合うといったような表現の方がよいと思います。ボランティア等地域の担い手の高齢化といった課題の中で、若い世代の方々にもボランティアの活躍の場を作る必要がありますし、世代を超えといったニュアンスで施策を行う必要があるからです。</p> <p>また、基本指針③の具体的な取組の中に「食育」の観点を位置付けてほしいです。食育は、生きる力や生活力そのものだと思いますし、何を食べ</p>

	<p>たら健康になれるか、どんなことに注意すれば健康的な食生活をおくれるかは生きていくための必要最低限のことだと思います。食農教育といった、農業も含めた食べることの教育や学習も取り入れていただきたいと考えています。</p>
委員	<p>茅野市地域創生総合戦略は非常にうまくまとまっていると感じますが、総合計画と総合戦略との整合はどのように図っていくのですか。</p>
事務局	<p>総合戦略は第4次総合計画と第5次総合計画の橋渡しの計画と位置付けており、第5次総合計画では各政策を横断するプロジェクトとしての位置付けとして考えています。</p>
委員	<p>茅野市地域創生総合戦略は、人口減少・少子高齢化対策や広域連携など、20年後、30年後に目が出る計画として、これをもう少しうまく第5次総合計画に溶け込ませたり、整合を取っていければよいと思います。</p>
会長	<p>以上、資料1でかなり細かくご意見をいただきましたので、今日の意見を反映させて、事務局は次回資料を作成していただくようお願いします。</p>
事務局	<p>(3) (仮称) 第5次茅野市総合計画策定全体ミーティングについて ・ ・ ・ 資料3に基づき説明 ・ ・ ・</p>
会長	<p>5月24日水曜日に全体ミーティングを開催し、市長が座長でみなさんのご意見をお伺いしたいとのことですので、予定をお願いします。</p>
事務局	<p>10 その他 第3回を5月15日月曜日午後6時30分から、市役所8階大ホールで行います。開催通知は改めて送付させていただくとともに、資料についても、できる限り事前配布させていただきます。</p>
会長	<p>11 閉会 以上で本審議会の内容をすべて終了いたします。本日はたくさんの有意義なご意見をいただき、大変感謝を申し上げます。みなさんの貴重なご意見を次回の資料に反映し、提出いただきます。 本日はどうもありがとうございました。</p>
	<p>以上</p>